

## 2014アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[ 尾花沢市立常盤中学校 ] 担当教諭名[ 阿部 千恵子 ] ( 1年1組 14名 )  
 交流相手国[ カナダ ]  
 海外学校名[ Millidgeville North School ] 担当教諭名[ Heidi Patullo ]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	自文化・異文化理解と国際交流	22

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	青春～海岸都市に生きる(カナダ)、伝統を踏まえ生きる(日本)～
絵に込めたメッセージ	カナダと日本の国旗をデザインした地球を中心に、それぞれの生徒の生き生きとした日常を描いた。背景には、文化を支える自然の美しさを配置し、互いの文化や自然環境の違いを尊重する心が世界の平和を育てるところを示している。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
交流の中でも、実際にテレビ会議で、遠く離れた国の生徒と話しが通じた時の喜びは大きかった。そして、他国の文化を通じて意外性や発見の喜び、さらに多くの事を知りたいという意欲が出たこと。外国語が身近になったこと。活動を積み重ねて行くたびに、生徒の動きが早くなって行き、判断力・決断力が身についてくる様子が実感できた。	英語が不安なため、最小限の会話で済まそうとしたことで時差の確認が不足し、1回目のテレビ会議が失敗してしまった。時差が大きい場合、何度も確認をして、テレビ会議をすることが大切。中学1年生では、相手の話すことがほとんど理解できなかった。その体験も、後につながると思うが、2・3年生くらいの方が、会話になると思う。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
漠然とした「世界」や「外国」であったものが、「同じ年頃の中学生在が実際に住んでいる国々」との捉えが出来て行った。国の場所や出来事への興味が出てきた事と共に、自分の国の文化を改めて見直すことが出来て行った。	テレビ会議の失敗から、改めて地球は丸く、動いている事が実感された。相手国だけでなく、平和について意識が高まり、日本が世界からどう見られているのかを考えるようになったし、生徒にも発信するようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
自己紹介	8月	国際交流壁画について自己紹介文を書こう 相手校の生徒を知ろう	内容を聞き、一人一人がやってみたいことがたくさん出てきた。自己紹介文を簡単な英文で書く事が出来た。相手の自己紹介の写真に興味を持つことができた。	総合5
テーマ学習	9月	日本のものを贈ろう 日本文化を知ろう 日本文化を紹介しよう 相手の文化を知ろう	日本らしさがある身近な物を贈り物にしようと提案すると、嬉しそうに考え始めた。また、日本の文化を紹介する活動にも、大変意欲的な取り組みであった。一人一人が英文まで良く考えた。カナダの都市の写真が届き、イメージが膨らんできた。カナダで知りたいことをそれぞれが楽しそうに調べた。	総合8
構図決定	10月 11月	構図を考えよう 構図について意見を交流しよう	構図案の交流はスムーズに進む事ができた。どの部分を描くかも、スムーズに決まった。	総合2
壁画制作	12月	絵の下書きをしよう 絵を完成させよう	下書きにも本書きにも、普段美術が得意でなさそうな生徒も含め全員が楽しそうに取り組んでいた。分担しながら壁画を完成させることが出来た。最後に誇らしげに、裏に一人一人がサインをした。	総合5
鑑賞・振り返り	2月	自分たちで完成した絵を鑑賞しよう 発表しよう 振り返りの活動をしよう	完成した絵を眺め、皆満足そうであった。全校生を前に、これまでの活動を発表した。活動を通して得たものに、予想以上にたくさんの視点から書いていた。最後の感謝のカード作りにも真剣に取り組んでいた。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:あまり重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	日本の文化を紹介しようとして、改めて身近な物や、文化遺産や動植物など、多くの視点から生徒は考えていた。
異文化の理解	A	5	特に実物としてクリスマスカードが届き、自己紹介写真を見て、生徒の関心がぐっと深まっていった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	当初、英語が不安だった生徒も、活動を重ねるごとに、意識が高まり進んで活動するようになっていった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	日本からの贈り物の紹介や日本文化の紹介の際に、インターネットを上手く活用していた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	何を紹介するかを考えたり、英語での紹介文を考えたりを繰り返すごとに、学級内での話合いや交流が活発化していった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	絵を描く際に、絵の具の共有や、狭い場所での譲り合いが必要になったが、自然に良い雰囲気でも活動できた。
学習を追究する意欲	B	4	途中で意欲が途切れることなく、多くの活動を時間内でこなすことができた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	C	4	絵に対し、苦手意識を持つ生徒もいるが、分担をすることで、全員が楽しく描くことができた。
作品を鑑賞する力	C	4	上手へたにこだわらずに、一人一人が、満足感をもって、鑑賞していた。完成したことへの喜びがあふれていた。